

## 国際関連情報 国際会議等

# 米国財務会計基準審議会（FASB） との第13回定期協議の概要

みやばやし あきひろ  
専門研究員 宮林 明弘

## 1. はじめに

2012年9月13日及び14日の2日間、企業会計基準委員会（ASBJ）は、米国財務会計基準審議会（FASB）との間で、第13回定期協

議を東京で開催した。FASBからはLeslie F. Seidman議長及びThomas J. Linsmeier理事が参加し、ASBJからは西川委員長、加藤副委員長、新井副委員長、都委員、小賀坂主席研究員、その他各議題を担当する研究員等が参加した。

## 2. 全体のスケジュール

日時	議題	主な内容
13日 午前	ASBJ、FASBの各アップデート	
	金融商品（分類及び測定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• OCIを通じた公正価値区分</li> <li>• 分類変更日 等</li> </ul>
午後	金融商品（減損）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 減損モデルに関する分析</li> <li>• 負債証券への適用 等</li> </ul>
	収益認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ライセンス</li> <li>• 一定期間にわたり充足される履行義務</li> </ul>
	リース	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 貸手の会計モデル</li> <li>• 借手の会計モデル</li> </ul>
	開示フレームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>• FASBの討議資料の分析</li> </ul>
14日 午前	ASBJのリサーチ・プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 純利益の概念</li> <li>• 公正価値測定の範囲</li> </ul>

### 3. 議事概要

#### (1) ASBJ/FASB アップデート

ASBJ側からは、次の項目を中心に説明がなされ、意見交換が行われた。

- 国際財務報告基準（IFRS）を取り巻く最近の状況（企業会計審議会の検討状況及び公表物など）
- 日本の関係者の米国の動向への関心（米国証券取引委員会（SEC）の最終スタッフ報告書についてなど）
- 国際会計基準審議会（IASB）の将来のアジェンダ
- 各国会計基準設定主体等の協調関係、及びASBJとFASBとの間の継続的コミュニケーション

FASB側からは、米国のIFRSに関する動向、主要なプロジェクトの検討状況、及び非公開企業評議会の設立と今後の活動などを中心に説明がなされ、意見交換を行った。

#### (2) 金融商品（分類及び測定）

FASBとIASB（以下「両審議会」という。）は、各々の金融商品の分類及び測定モデルの差異の削減を図るための共同作業を行うことを2012年1月に決定した。具体的な検討項目は、(1)商品の契約キャッシュ・フロー特性テスト、(2)金融資産の分離及び(3)第3の事業モデル（OCIを通じた公正価値区分）とされていた。そして、両審議会の共同審議は、2012年7月に実質的に完了した。このセッションでは、両審議会が当該共同審議中に行った暫定決定の中から主に以下の論点について、ASBJスタッフの分析及び見解を説明し、意見交換を行った。

- OCIを通じた公正価値区分で金融資産（負債性金融商品）を分類するための事業モデル評価

- 分類変更日
- 複合商品における組込デリバティブの分離

#### (3) 金融商品（減損）

2011年7月以降、両審議会は共同会議にて、金融資産の減損について3つのバケットに基づくアプローチを開発していた。しかし、2012年7月の両審議会の共同会議において、FASBのスタッフは、3バケットモデルについて多くの関係者がその理解可能性、実行可能性、監査可能性について重大な懸念を表明していることを示した。そして2012年8月に、FASBは現在予想信用損失モデル（Current Expected Credit Losses Model）という代替モデルの検討をすることとした。このセッションでは、2012年7月までの共同会議と2012年8月のFASBのみの会議で暫定決定された事項を基礎として、主に以下の論点について、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- 検討されている減損モデルに関するASBJスタッフの分析
- 負債性証券への減損モデルの適用
- ローン・コミット契約への減損モデルの適用

#### (4) 収益認識

2011年11月に両審議会は共同で改訂公開草案「顧客との契約から生じる収益」を公表し、2012年3月にコメント募集を締め切った。受領したフィードバックを基礎にして、両審議会は2012年7月以降、再審議を継続している。このセッションでは、2012年7月の両審議会の共同会議において再審議がなされた項目の中から以下の点について、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

- ライセンス
- 一定の期間にわたり充足される履行義務

#### (5) リース

2012年6月の両審議会の共同会議で、リースは、借手・貸手の各々において、2種類の異なるリースに区分した上で、異なる会計処理がされることが暫定決定された。当該区分は、借手がリース期間にわたって原資産の重要でないとはいえ部分を取得し消費するかどうかに基づき、決定する。なお、このリースを区分する原則は、不動産のリースと不動産以外の資産のリースにおいて、それぞれの原資産の性質に基づく実務上の便宜を用いて適用することが暫定決定された。

このセッションでは、貸手と借手のそれぞれの会計についての当該暫定決定に対する、ASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

#### (6) 開示フレームワーク

FASBは2012年7月に討議資料「開示フレームワーク」を公表し、2012年11月16日までコメントを募集していた。当該定期協議時点においてASBJの検討は未だ初期段階ではあったが、当該セッションにおいて、何点かの事項についてASBJスタッフの分析及び見解が説明され、意見交換が行われた。

#### (7) ASBJの研究・プロジェクト

IASBは、意見募集「アジェンダ協議2011」へのコメントを踏まえ、2012年5月のIASB会議において、フィードバックへの対応、今後のアジェンダについて審議した。審議の結果、概念フレームワーク・プロジェクトに関する作業が優先事項の1つとされ、その主要な焦点を、構成要素、測定、表示及び開示及び報告企業とすることが支持された。

ASBJではアジェンダ協議への対応の一環として、概念フレームワーク・プロジェクトに関するテーマも含め、いくつかの研究・プロジェクトを開始している。このセッションにおいては、当該研究・プロジェクトのうち、純利益の概念、及び、公正価値測定の範囲について、現時点でASBJスタッフが整理した見解が説明され、意見交換が行われた。

## 4. 次回の予定

今回は2013年上期にノーウォークで開催する予定である。